

確かな学力を支える「学びに向かう力」の育成

～読解力の向上を基盤とした学習指導を通して～

平成29年度 大津町小中学校共通実践事項

- (1)話し手に体を向けて聞く (2)「めあて」と「まとめ」の明示
(3)家庭学習の習慣化 (4)県学力調査に向けた課題克服プリントの計画的活用

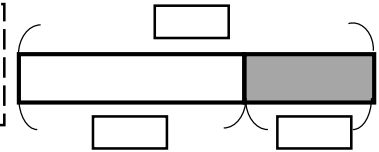
7月3日(火)
後藤

2年2組 算数科「かくれた数はいくつ」 ～テープ図をつかって式を考える授業～

問題

子どもが遊んでいました。

13人帰ったので、18人残りました。はじめに何人いましたか。



○ 花田先生の自評より

今回は既習を基にして、テープ図を使って考えさせる授業を行いました。指さしながら説明することや友達の意見を聞くことは、苦手かと思っておりましたがほとんどの子どもたちがテープ図に言葉をあてはめて、式を立てることができました。子どもたちの実態から、誤答と比べてさせることはせずに授業を進めました。むずかしい子どもたちも一緒に適用題までいくことができました。

○ 本時のポイント

事前研の時から、子どもたちの意見が分化することは予想されていました。そこから、子どもたちのつぶやきをもとにしつつ、「めあて」が決まりました。課題提示や最初の問いを工夫することで、低学年の子どもたちも自力で「めあて」を設定することができました。

理解のためには、子どもたちが遊んでいる絵を提示したり、問題文を分けて貼ったりするなど、視覚的な支援と手立てを用意したことが有効だったように思います。今回は、あえて誤答を取り扱うことはしなかったのですが、子どもたちの意見の中には「帰った、残った」の言葉に引きずられて引き算へのこだわりも見られました。それぞれの立式の根拠を全体で出し合う場があれば、間違いに気付く機会が増えたかとも思います。それでも、テープ図に示したことで「帰った子ども」が見えるようになり「はじめの人数＝全部の数」を求めるための足し算を考えることができました。

○ まとめ ～低学年で大切なこと～

- ①具体物の使い方を意図的にしよう。
(あえて使う、あえて使わない、どちらもある。導入だけでなく、説明にも使える。)
- ②基礎・基本、子どもたちのこれからの思考の土台をつくる。
(あらゆる学習が今後の思考の土台になる。小さなことでも丁寧に、徹底しましょう。)
- ③厳しい子どもたちを一番に考える。
(どの子も分かる授業は、厳しい子どもたちの姿から見えてくる。)

